

平成 25 年からの西之島沖噴火による新たな陸地の形成・拡大について (第七報)

平成 25 年 11 月 20 日に西之島の南東約 500m の海上で新島の形成が確認され、その後も噴火は継続し、西之島と一体となり島の面積は拡大を続けている。

平成 27 年 3 月 1 日に UAV で撮影した空中写真を判読して地形判読図を作成した。地形判読により判明したことは以下のとおりである。

1. 島の面積の拡大

溶岩流は、主に東方及び北方へ流下し島の面積は拡大し続けている。中でも東方に流出した溶岩流は規模が大きく、古い溶岩流を覆って流下している。

2. 火砕丘の成長

平成 26 年 7 月 4 日時点で二つあった火砕丘は、北側の火砕丘が成長し南側の火砕丘を埋積したためひとつの大きな火口を持つ火砕丘となった。

3. 溶岩流先端の侵食と砂州の形成による滑らかな海岸線の形成

溶岩流先端が波浪により侵食され、湾入部に溶岩片等が堆積して砂州が形成されている。その結果、東方に流下した溶岩流が現在海に流入している場所を除いて、滑らかな海岸線が形成されつつある。